

「普通」を目指すなんてもったいない

初夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

今回のお題は「普通」の評価なんてもったいないでいきます。世の中では、残念ながら常に「良い、普通、悪い」の評価はつきものであります。自分の子供の成績などは、「普通」と言われると妙にホッとします。さしあたって怒られる事がないという安心感でしょうか？世の中の多くの人は、「普通」という評価をもらった時、安心する事が多いような気がします。



代表取締役社長 吉田治伸

しかし、「普通」という評価は、本当に安心できる評価なのでしょうか？新商品アンケートで皆さんが「普通」という評価をした商品を購入するのでしょうか？購入しないでしょ。購入するのは「良い」という評価のものだけです。我々サービス業において「普通」という評価は、「悪い」と同等の評価なのであります。

しかし、現実的には、サービスを行う人も営業も事務も「普通」の評価しかもらっていない人が大変多いのであります。これってもったいないと思いませんか？「普通」の評価は「何にも評価されない(誰でもできる)」と同じなのです。それを「良い」に変えるには、じつは、あとほんのわずかの努力でできる事が多いのです。

もう少し早く。もう少しの笑顔。もう少し気遣い。もう少し感動させたい。...

タダでできる事を少し味付けするだけで「普通」から「良い」に変化します。

これが我々の業界の楽しい所です。

そして、この小さな味付けが大きな「やりがい」になっていくのです。

あと、ちょっとでできる「良い」を皆で目指しませんか？

暑さは日に日に厳しくなりますがご自愛ください。